

# 日韓トンネル通信

編集/発行  
特定非営利活動法人  
日韓トンネル研究会

事務局：東京都千代田区飯田橋4-1-11  
〒102-0072 信濃ビル6階  
TEL 03-3265-8813 FAX 03-3237-1012  
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：福岡市南区老司3-5-28-605  
〒811-1346  
TEL 092-556-7110  
☎0120-09-2188

## (報告)韓日議員連盟・韓日親善協会中央会を表敬訪問しました。

去る6月28日(木)、野澤太三会長と藤橋健次常任理事は韓日協力委員会のイ・デスン(李大淳)副会長の案内により、参議院協会韓国研修団一行と共にソウルにある韓日議員連盟・韓日親善協会中央会(キム・スハン 金守漢会長)を表敬訪問した。



左から野澤会長、金守漢会長(中央)、李大淳副会長(右)

キム会長は最近の韓国情勢を説明するなかで「韓国は人口が五千万人を越え、経済力もG20からG5に迫る勢いを見せている。日韓関係は長い歴史を俯瞰すると多少のいざこざはあったものの概ね良好であった。今後もその関係を続け発展させてゆくために、韓日トンネルは我々の世代で完成させなくてはならない」と語った。日本側からは北朝鮮問題などの質問が出され、交流会談は一時間以上続いた。



名刺交換する野澤会長

## (報告)ソウルの憲政会館を訪問し、日韓トンネルについて意見交換しました。

6月28日(木)、野澤太三会長と藤橋健次常任理事は参議院協会韓国研修団一行と共にソウルにある憲政会館を訪問し、憲政会の主要な人物と交流した。憲政会と研修団員の紹介のあと日韓双方全員が各々名刺交換を行い、記念撮影などをした後、隣接する国会議事堂を見学した。その後、議事堂内にあるVIP用レストランにおいて憲政会主催による昼食会が行われた。

昼食会では日韓トンネルを現実的に進めるため活発な意見が交わされた。昨年3月11日の東日本大震災が日韓トンネル計画に及ぼす影響などの質問もあった。この質問に対し、野澤会長は「地震の復興のために相当な増税までして設備投資を増やそうとしている。5年間で20兆円使う計画が今進んでいる。それが

終わる頃、日韓トンネルは計画に乗りやすくなる。ピンチをチャンスに変えることが大切」と回答した。また野澤会長は「次の大統領選でどなたが当選しても日韓トンネルをひとつの政策課題として挙げていただけると心強い」と韓国側への期待を述べた。

## (報 告)ソウルの日本大使館を表敬訪問しました。

去る6月29日(金)、野澤太三会長と藤橋健次常任理事は参議院協会韓国研修団一行と共にソウルにある駐大韓民国日本大使館を表敬訪問した。公使との面談で野澤会長は「日韓トンネル計画に四半世紀間携わり、6年前からは日韓トンネル研究会の会長を務めています。本日はその立場から日韓トンネルについて戸塚進也先生とイ・デスン先生のお計らいにより、韓日協力委員会で1時間ほど講演することになっています」と述べ、「日韓両国には日韓トンネルとは何かをご存知ない方が多いので、ひと目でわかるパンフレットを作りました」と続け、持参したパンフレットを用いて日韓トンネルの概要を説明した。

(説明の内容は【パンフレットでの説明】に記す)

公使は最近の日韓関係について触れ、一進一退しながらも着実に親善関係を前進させて行く外交最前線の様子を簡潔に説明した。

### 【パンフレットでの説明】

日韓トンネルについて、ひと目でわかるパンフレットを作りました。日本国内では国土交通大臣まで説明しています。国会議員にもこれから広めて参ります。



パンフレットの4ページ目(左)と1ページ目(右)

### ◆1ページ

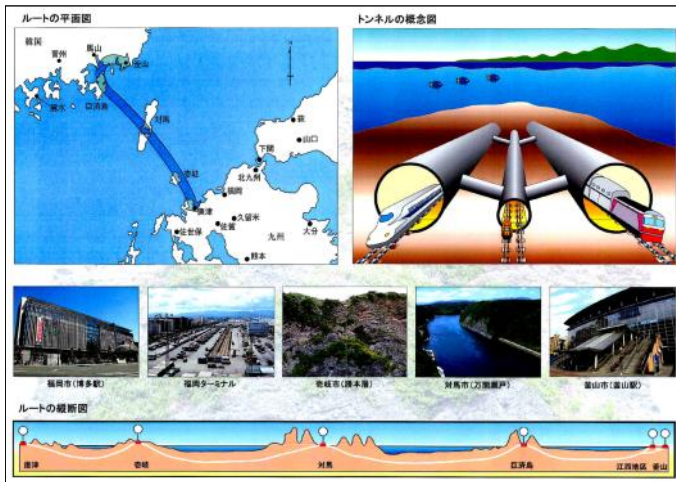
日韓トンネルの位置図です。対馬を中心に、125km圏から1000km圏まで円を描いています。このうち500km圏が現時点で実現可能な範囲で、やがて1000km圏までトンネルの効果が及び、最終的にはシベリア鉄道やシルクロードに繋がりますが、当面は500km圏の人口と産業をベースに議論することが大切と考えています。

### ◆2ページ

平面図の通り、ルートは唐津から壱岐、対馬、巨済島を経て釜山までの270kmです。起点と終点は福岡と釜山です。そのイメージを5枚の写真で示しました。ルート縦断面図のように唐津、壱岐、対馬、巨済島、江西地区、釜山は全て地上駅とし、工事中は施工基地として、完成後は車両基地として利用できます。

### ◆3ページ目

日韓トンネルの概念図です。英仏海峡トンネルに倣い単線並列型とし、掘削に有利な小断面化を図るとともに列車のすれ違い時の安全性を確保します。真ん中にサービストンネルを掘ります。



パンフレットの2ページ目(左)と3ページ目(右)

#### ◆4 ページ目

##### Ⅰ. 日韓トンネルの諸元

総延長距離は 270km、福岡から勘定すると 370km です。海底部距離が 150km で青函トンネルを 5 つほど並べた形になります。最小曲線半径は 6000m、勾配の 12 ～ 15 パーミりは青函トンネルや英仏海峡トンネルの実績に因りました。工期は約 10 年、工事費は概算で 10 兆円です。

##### Ⅱ. 利用方法

新幹線と KTX が相互に乗り入れ、コンテナや宅配便を載せた貨物コンテナ列車が行き来します。車はコンテナ、バス、乗用車 3 種類をシャトルカーで運びます。これはユーロトンネルやスイスの国境トンネルの例を参考にしました。

施工方法では右下の写真のようにトンネルボーリングマシン (TBM) を使って月進 500m、年間で 6km 位のスピードで掘り抜くことが現在技術的に可能です。なお、この写真は英仏海峡トンネルのフランス側で使用した川崎重工業の機械で、計画月進 500m、実績で 600m、最高で月に 1200m 掘り抜いた日本が世界に誇る TBM です。水圧 200 トン/㎡位までは十分に耐

えるので、これをもう少し深く使えるように改良すれば十分に実行可能です。

#### Ⅲ. 運用方式

完成後に赤字にならないために上下分離方式をとります。現在青函トンネルや整備新幹線が全てその上下分離方式でやっています。これはインフラの建設ならびに維持管理の主なところは公的主体が受け持ち、民間は運営経費とその利益で賄うという仕組みです。これならば充分やって行けると考えています。

#### ◆その他の重要説明事項

##### ①建設費とその調達

工費 10 兆円は相当なものだと心配する向きもあります。現在日本は東日本大震災の復興に取り組んでおり、20 兆円の復興費を 5 年間で実現することで既に着手済みです。さらに国土強靱化基本法が提案されており 10 年間で 200 兆円使う計画が持ち上がっています。これから国会で審議されると思いますが、その一環として日韓トンネルを取り上げて頂ければ韓国と日本が陸続きになるという安全安心の大きな保障ができ、日本経済の強靱化としなやかさが確保され、日韓両国が大変裨益し、将来それが中国やその周辺国まで及んで行くと考え、私どもは大いに力を入れています。

##### ②アジェンダ 21

福田総理とイ・ミョンバク大統領がスタートさせた「日韓新時代のための提言」の中のアジェンダ 21 に日韓トンネルが取り上げられています。これは併合 100 年を反省総括し、これからの 100 年をどう迎えるかという研究を両国の学者 13 人ずつが共同研究した結果、一昨年 10 月に提出されたものです。後任の野田佳彦総理とイ・ミョンバク大統領は昨年暮れ



の首脳外交でこの取り決めに承認し、さらに深度化するため第二期の勉強に入ることが決まっています。

#### ◆説明の最後に

今後予想される韓国の大統領選挙などの中でもご議論頂き、施策として採用されるならば一気に進む可能性が出てくると考えています。大使館の各位におかれましてもご配慮よろしくお願いいたします。

以上、駐大韓民国日本大使館での説明概要

### **(報 告)韓日協力委員会で日韓トンネルの招請講演をしました。**

去る6月29日(金)、ソウルのプレジデントホテルで日韓トンネル講演会が開かれた。主催者は韓日協力委員会(ナム・ドク会長)で、招請講演者として野澤会長がテーマ「韓日海底トンネル構想と実現への展望」について約1時間にわたり講演した。会場には日韓トンネルに関心を持つ約30名が参席した。

講演や質疑応答など詳細は、紙面の都合上、次号「日韓トンネル通信 No. 26」に掲載します。

### **(報 告)九州支部の幹事会を行いました。**

去る7月5日(木)、福岡市で九州支部の幹事会を行なった。佐々木和資副会長、浦田拓郎理事、国分節雄理事、藤橋健次理事が参加し、東京総会(6/26開催)の報告、九州支部報告会(7/26予定)の内容検討、韓国における日韓トンネルの動向確認などを行なった。

### **(お知らせ)パンフレットをご希望の方へ。**

「日韓トンネルとは何か」がひと目で分かるパンフレットを作製しました。これは昨年



韓日協力委員会で日韓トンネルの招請講演をする野澤太三会長

6月の第8回通常総会で会の公式見解として採択された「日韓トンネルの構想と実現への展望」(緑色の小冊子A4版7頁)の内容を文字ではなく、図面や絵で表現したもので、野澤会長自らが、何度も打ち合わせの会議を持ち、完成したものです。

日韓トンネルとは何か?どのように建設するのか?何処を通過するのか?等について臨機応変に説明できます。忙しい方々には、5分から10分で、時間を多く取ることができる場合は、30分以上1時間でも説明できるように工夫されています。

会員の皆様におかれましても日韓トンネルの広報のためご使用戴くようお願いいたします。尚、パンフレットの御用命は、印刷実費(80円の寄付)にて賜ります。

パンフレット「日韓トンネル構想と実現への展望」をご希望の方は事務局までFAXあるいはメールでお申し込みください。

\*\*\*\*\*

- ・パンフレット形態：A4 4頁(総カラー)
- ・日本語版、韓国語版、英語版があります。
- ・1部あたり80円の寄付をお願いします。
- ・送料は20部まで80円です。  
(それ以上の場合にご相談ください)